

多能工化による生産性改革で時間あたりの限界利益向上に挑戦！

生産性を向上させる 「多能工化」の進め方

[中小企業大学校 金沢キャンパス開催]

研修のねらい

熟練従業員の高齢化、人手不足、資材や人件費の高騰という大波に直面する今こそ、本気で仕事の進め方、やり方を見直すべき時です。

この研修では、「多能工化」という突破口から、これらの問題に対処する方法を学びます。実際に社員の能力をフルに引き出すための具体的なポイントについて、演習を交えて学ぶことで、的確に自社の課題を把握し、自社に合った多能工化の実施計画を作成することができます。

研修のポイント

- ✓ 不足する人手や資源と、技能承継の問題に対応する方法が学べます。
- ✓ 自社の実際の姿を的確に把握できる機会となります。
- ✓ 多能工化を本気で進めるための実行から定着までを検討する機会となります。

研修期間

2025 年

7/8^火～7/9^水9/5^金 (3日間・20時間)

対象者

経営幹部、管理者等

- ・ 人手不足に対応したい方
- ・ 技能伝承を進めたい方
- ・ 生産性向上に対応したい方

※経営者・経営幹部の方と、製造部や品質管理・生産管理・生産技術の部署の管理職の方等、2名以上でのご受講をおすすめします。

定員 12名

受講料 29,000 円(税込)

会場

金沢パークビル 9 階

902 会議室

石川県金沢市広岡3-1-1

※9階エレベーターを出て正面の会議室です

※中小機構のロゴマークが目印です

月 日	時間	科目	内容
7/8 ^火	9:20-9:30	オリエンテーション	
	9:30-12:30	技能伝承と平準化 多能工化の実践ステップ	技能伝承と平準化の意味を理解し、多能工化への向き合い方と変革を進める者の役割について学びます ・ 多能工化のデメリットとメリットを検証する ・ 実践ステップと留意点および改善指導との結び付け ・ 経営幹部責任者・管理者に求められる役割
	13:30-17:30	業務内容と現状の負荷の把握 スキルの課題分析と多能工化計画 予想される問題点の洗い出し	・ 現状把握の方法を事例を交えて学びます 作業内容の分類方法、作業の負荷調査 ・ スキルマップの作成の仕方を学ぶとともに、多能工化計画の立て方や教育訓練のポイント事例を交えて学びます ・ 多能工化の失敗例の紹介 ・ 予想される問題点の洗い出し・整理（演習）
7/9 ^水	9:30-12:30	多能工化のシミュレーション 作業改善と作業標準	・ 指導者、指導を受ける人、仲介者（サポーター）の三者に分かれてロールプレイング方式で多能工化を体験します ・ 多能工化のシミュレーションを通じて、作業改善と作業標準（作業標準書）の必要性や方法を学びます
	13:30-17:30	次回までの課題説明	インターバル期間中の課題を説明します ・ スキルマップの作成または改訂 ・ 自職場の多能工化実施計画書づくり ・ 多能工化の教材準備（QC工程表、作業標準書、設備点検表、検査基準書など） ・ 多能工化で予想される問題点に対する対応策の検討

インターバル期間

9/5 ^金	9:30-16:30	課題発表と自由討論 講義	・ 各自より課題の発表 ・ 課題についての自由討論
	12:30-13:30	質疑応答 決意表明	・ 「多能工化による効果（労働生産性）と表彰について」 ・ 3日間の研修内容について質疑応答
	16:30-16:40	修了証書授与	

※カリキュラムは、都合により一部変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

講師紹介（敬称略）



株式会社実践マネジメント研究所 代表取締役

植條 英典（うえじょう ひでのり）氏

1958年岡山県生まれ。奈良県在住。大学で生産管理、IE技法、QC手法を学ぶ。中堅家具製造卸会社の経営企画室勤務を経て1985年に中村技術士事務所に入所。以来、製造業を中心とした現場の改善と管理者の育成を手掛ける。2004年、実践マネジメント研究所を設立し、2016年2月に法人化。これまで全国各地で大手メーカーから中小企業まで約370社を指導。その経験を活かして中小企業大学校や各地の産業団体等で研修講師として活躍している。（マレーシアで品質管理セミナー講師も務める。）

モットーは、「常に企業は人なり」「改善に終わりなし」「ご安全に」。豊富な具体例を基にした分かりやすいセミナー内容と情熱あふれる指導ぶりには定評がある。